

2026年4月30日発行

今井館と東洋文庫

土肥 祐子

一昔まえ、六義園の近くに品の良い小さな喫茶店がありました。マスターが炒れる珈琲と奥様お手製のケーキが美味しく、近くに勤務している私は、よくここに入りオアシスのように愛用しておりました。ただ横の入り口に「駒込・無教会」という看板があったので、あらここに無教会があると思っていつか聞いてみようと思っておりました。そのうちにお店はいつの間にか閉店になってしまいました。

時は過ぎて、目黒区にあった今井館がここに移転することになったと伺い、はじめてマスターが荒井克浩氏で、移転については荒井氏はじめ多くの関係者の方々が非常に苦労したことを知りました。工事がはじまり、基礎工事から、建物が建つまで、時々行ってはテントの隙間から覗いておりました。心を込めた素晴らしい今井館が完成いたしました。資料館としても充実しており、日本の近代キリスト教関係の蔵書が開架式にずらりと並んでおり、ここでじっくり研究が出来て羨ましいと思いました。文京区の区民として誇らしく、うれしく思っております。私も大いに利用しようと思っています。

一方、今井館から10分のところに公益財団法人東洋文庫があり図書館、研究所、ミュージアムを兼ねております。私はここで勤務しておりますが、1昨年(2024年)で創立百年を迎えました。三菱の岩崎弥太郎の長男久弥がアーネスト・モリソン(中華民国の政治顧問)の蔵書を購入し、それを基礎として発展していったものです。六義園一帯は弥太郎の所有でしたから、今井館も東洋文庫もその一角だったのです。

第二次世界大戦後、東洋文庫は財閥解体で財政難に陥り、その上、連合国の極東理事会で、東洋文庫の蔵書を賠償品として接収するという提案がありました。査察に来ると知った文庫理事長の幣原喜重郎(元総理

大臣、弥太郎の娘婿)は咄嗟に欧米人は漢籍(漢字)がわからないから、関心があるものと言えばキリスト関係の欧米語の書、文庫にある貴重なキリスト教関係の書を集めて展示し、接収



2025年夏東洋文庫で古文書を読む土肥氏

を免れました(この時から国会図書館支部になりましたが、今は独立)。この様に文庫はキリスト教の書籍で救われたのです。文庫には重要文化財のドチリーナ・クリシタン(1592年、天草刊)、グレゴリオ聖歌(1605年長崎刊)、ラテン語の聖書、秀吉のクリシタンの迫害図、迫害日記、踏み絵など多くの資料があります。マルコ・ポーロだってバチカンから使者を派遣するという命をもってフビライ・ハンに会っているのです。長い歴史の証言として書庫に安置されております。これらの書籍は手続きさえすれば誰でも閲覧できます。

内村鑑三を中心とする日本の近代キリスト教を研究する今井館に対して、欧米のキリスト教史、中国に入った景教(キリスト教)など歴史的な書籍を持つ東洋文庫とは、お互い相まって研究が出来ると思います。どんな小さなことでもよい、関心をもって探求し、大きな観点から掘り下げていってもらいたいと願う者です。

(どひ ゆうこ 東洋文庫研究員 元東京聖書読者会会員)

目 次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨.....2	二周会の紹介.....11
2025年度内村鑑三記念キリスト教講演会（東京）..3	学校・学寮だより.....12
2025年度内村鑑三記念キリスト教講演会（大阪）..5	各地からの報告・定期集会・特別集会の お知らせ.....15
2025年度内村鑑三記念キリスト教講演会（名古屋）7	事務局便り.....19
内村鑑三がベルにおくった柏会の写.....9	維持会員募集のお知らせ・編集後記.....20

内村鑑三の言葉

「山上の垂訓に就て」

所謂「山上の垂訓」は又公衆一般のために説かれたる者ではない、是れは特に弟子達のために説かれたる者である、天国の福音であるから特に天国の市民のために説かれたる者である、是は所謂イエスの倫理観ではない、天国の憲法である、信者の道德である、神の子と成るを得て天国に入るの特権を与へられし者の守るべき、又守り得べき憲法である、此心を以て之を読まずして其中に解し難い事が沢山にある。

選者注：『聖書之研究』164号（1914年3月10日）、
『内村鑑三全集』20巻、289頁

春半ば、青草が芽吹き、花が咲き、鳥が囀る……。ガラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ各地から苦しむ人々が集まる。イエスは、山上で語る。「福なり心の貧乏者は、天国は即ち其人の有なれば也。」「福なり哀む者は、其人は安慰を得べければ也。…」(「キリスト伝研究(ガラヤの道)」、同27巻、316頁)と。この「祝福の辞」は、地にある人に約束された「福音」であり、また天国の市民の「憲法」なのである。

(選：NPO法人今井館教友会監事 小林孝吉)

○表紙について

本号の巻頭言は、土肥祐子さんが、今井館の隣組と呼んでも良い御勤め先の東洋文庫についてお書き下さった。東洋文庫も今井館もかつて岩崎弥太郎所有の同じ敷地内にあったということ



桜（秀村弦一郎画）

ことです。土肥さんによれば、それぞれが所蔵する貴重な資料は、一見分野は違いますが、研究者の鋭い眼によっては、響き合い繋がる歴史的発見があるかも知れません。資料を保管することの大切さを改めて考えさせられます。(CY)

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。

2025年度内村鑑三記念キリスト教講演会（東京）

司会 森山 浩二

桜の開花が始まる暖かな3月22日（日）午後、しかし、ウクライナや中東ではロシア、アメリカなどの大国が戦争を展開している中、2025年度の講演会を開催いたしました。講師は立教大学教授のゾンターク・ミラ氏、弁護士で水戸無教会聖書集会の萩野谷興氏のお二人をお迎えし、「内村鑑三研究は（今）何のために役立つか」、「一キリスト者弁護士の歩み」と題して、前者は「内村鑑三研究」の歴史とその内実をとりあげつつ、これからの内村研究と無教会への課題を提起され、後者は無教会キリスト者弁護士として二つの裁判を取り上げ如何に関わったかを中心に、信仰者としての証しをしてくださいました。今井館参加者は67名、ZOOMオンライン参加者11名、講演後、講師を囲んでの懇談会を約40分持ちました。講演の要旨は次の通りです。

（もりやま こうじ 渋谷聖書集会）

講演要旨

1. 内村鑑三研究は（今）何のために役立つか

ゾンターク・ミラ

歴史的には内村の思想および信仰実践の継承と内村研究は密接につながっていたが、内村の生涯と思想を研究し始めた人々は、内村を概ね好意的に論じるようになった。「批評」と言えるほど鋭い研究も存在しているが、これまでの「内村研究」は誰によって何のために生み出され、受容されてきたかに関する総括はまだない。内村研究の問題提起と方法論は時代と共に変わり、研究者の地域、社会、学術分野や「教派」などにおけるエンベデッドネス（文脈との関連性）とポジショナリティ（立場性）によって規定されている。しかし研究の実施目的と受容目的は当然ながら異なっている。

これまでの内村研究の目的（指向性）は何であったのか、また内村研究者は今どのような方法論をもってどのような問題に取り組むべきかを考察し、そしてその受容者の姿勢についても考えてみた。近年の世界は、内村の時代に堅調だった新帝国主義的な地政学と独裁政治に戻ったように見えるからこそ、内村の思想をポストコロニアル理論の視点から問い直すことは重要だろう。それは新帝国主義的近代を生きながら、その主張を変え続けた内村の思考のプロセスから学ぶことでもある。だが、内村が提唱した「二つのJ」や「真理の楕円形」などを「思考様式」として捉え、その裏にある内村の問題意識を把握し、内村が導き出した答えからではなく、その問題意識から学びながら今の世界を問うことが重要である。そしてそのプロセスを通して立てた問いに対する自分の答



講演するゾンターク・ミラ氏

えを模索できる。今回の講演では、拙論の「預言者になりたがる元異教徒が見た夢—内村鑑三の「初夢」（1907年）に迫る」（2022年）に触れながら、「二つのJ」というスローガンは、「東西」論に囚われた内村が周りの世界に見出した分断を指していることを明らかにし、内村が分断と思想的葛藤の超克を世界の癒しとして夢見たことを確認した。だからこそ「今」を生きる私たちは、それを愛国者であるべきとの命題に捉えず、むしろ今の世界と社会、また無教会の中にも存在する分断を見出し、その超克に向けて働き続ける励ましとして受け取るべきと訴えた。また「真理の楕円形」を、二元論を避ける訓練としてだけでなく、社会生活と研究において常に「多様な」視点を考慮し、多極的な活動に心がける思考様式として理解した。

（ぞんたーく みら

立教大学文学部教授・内村鑑三研究編集委員）



会場からの質問に答えるゾンターク氏、左、
と萩野谷氏、中、右は司会の森山氏

2. 一キリスト者弁護士歩み

萩野谷 興

1 私は、金融機関に8年余勤務後、退職し、弁護士になるべく司法試験の準備を始めた。大学図書館で勉強中に知り合った人が韓国人学者姜東鎮(カン ドンジン)氏であった。私は1975年に司法試験に合格。78年4月に弁護士になり、以来、本年3月で48年になる。これまでに扱った事件は種々あり、記憶に残る事件も少なくない。その中から、2件の訴訟事件を取り上げ、ご報告したい。

2 姜 東鎮氏対筑波大学事件(被告は、形式上は国)

姜氏は79年4月以降筑波大に外国人教師として勤務(1年ごとの契約更新の形)。問題の発生は83年秋。上司が「外国人教師雇用契約に関する覚書」(以下、「覚書」)に署名するよう求めてきた。その内容は、「84年4月～85年3月まで雇用契約を更新する。しかし、85年4月以降は更新しない」というもの。上司は、「これは形式上のもので、優秀なあなたには適用しない」とか「教育担当の副学長は近い将来、あなたを定員化(注:教授、助教授への任命)と言っている」などと説明。84年3月に姜氏覚書に署名。ところが、85年4、5月に大学側が態度を急変。定員化はおろか覚書を盾に契約更新を拒絶。交渉してもらちが明かず、私が姜氏の代理人として同年6月水戸地裁に解雇無効の訴訟提起。約1年間主張の応酬。86年、当方の有力な証人の尋問期日が決まった矢先、大学側から裁判外での決着の提案。その際、思いがけな

い情報が入る。姜氏が筑波大付属病院に入院中で、病名が深刻なものとのこと。存命中に何らかの解決をして本人に安堵感を抱いて頂く必要に迫られた。大学側の解決案は当方には不満足なものであったが、本人、家族とも相談の上、大学案を受諾することを決断。一応の結果が出たのは、11月上旬。しかし、同月15日、姜氏は逝去、享年61歳であった。

3 東海第二原発差止訴訟事件[原告住民ら、被告日本原子力発電(株)]

私自身、2011年3月11日の東日本大震災の怖さを体験したこと、東電福島第一原発爆発による被害の重大性を身近に感じたことなどから、弁護士として、またクリスチャンとして、地元の東海第二原発の再稼働に



講演する萩野谷興氏

反対の行動をすることは神様が私に求めておられるのではないかと考えた。そのような思いのもと、弁護団の形成および訴訟の遂行に私なりの力を注いだ。

水戸地裁への提訴は2012年7月、原告266名、代理人弁護士71名。2021年3月、裁判所は、住民ら勝訴という画期的な判決を下した。被告の控訴により現在東京高裁で審理中。原発については賛否両論があるが、私はこれまでの経験から、「原発は人類と共存できない」と考えている。

(はぎのや こう 水戸無教会聖書集会 弁護士)

2025年度 内村鑑三記念キリスト教講演会（大阪）

津崎 哲雄



大阪クリスチャンセンターで講演を聞く参加者たち

2026年3月20日（金・休）に大阪・内村鑑三記念キリスト教講演会が大阪クリスチャンセンターで催された。講師・司会を含め29名の参加だった。講師に地元から清水勝氏（高槻聖愛キリスト集会）、東京から中林憲一氏（テコア聖書集会）を迎え、工藤新三氏（聖天聖書集会）が司会の労を担われた。内坂晃氏（聖天聖書集会）が司会の予定だったが直前に病に倒れ交代された。

はじめに清水勝氏が「主に従う私の道」（エフェソの信徒への手紙6章10節～20節）と題して講演された。続いて中林憲一氏が「内村鑑三に学んだキリスト教」と題して講演された。以下清水氏の講演を氏から頂戴した要旨に基づいて、また中林氏の講演を津崎の要約によりご紹介する。

（つぎき てつお 淀聖書集会）

講演要旨

1. 主に従う私の道

清水 勝

クリスチャンの力の源泉は、主キリストです。聖書は、私たち人間が弱いので、私たちに無い力をキリストに求めるようにと教えています。弱いままの自分をキリストに委ね切って、キリストの力が、弱い自分の内に働かれるのに委ねるのです。

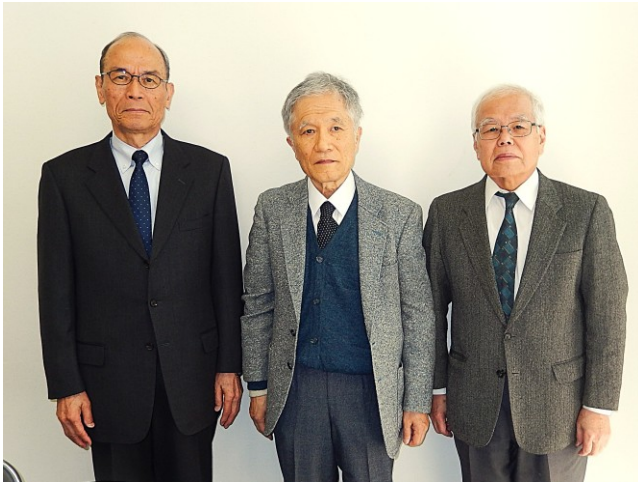
クリスチャンが戦う敵は人間ではなく、人間の中に働きかけて人間を罪に誘う悪魔（サタン）です。悪魔は人間よりも強い。しかし神様とキリストは悪魔よりも強い。従って私たち人間は神の武具で完全に武装しなければ、悪魔に勝つことができません。聖書に、「神の武具を取りなさい」とあります。

「真理の帯を締める」、キリスト者は福音の真理をその身の中心に帯びます。キリストの十字架の死と復活という神の御業がその中心です。私たちクリスチャンは、神の子イエス・キリストの十字架の死と復活によって罪が赦され、救われた者です。私たちはこの福音の真理によって立つ者です。

「正義の胸当てを着け」、「正義」とはキリストが血を流されたことによってクリスチャンに与えられる神の義を指します。私たちを罪の呵責で苦しめ、不安にし、絶望させる悪魔の力を完全に取り除くのは、キリストの血です。私たちは、キリストにおいて既に究極の救いに入れられたと信じることができれば、もはや恐れは全くなくなる。私たちはこの世のすべてのものを失ったとしても永遠の命を受け継ぐことを確信できるならば、私たちの霊魂は安らいでいられるからです。悪魔にとって、欲のない人、命を惜しまない人ほど始末に負えない者はいないのです。

最後にパウロは、クリスチャンに与えられた唯一の攻撃的な武器について述べています。それは聖書の御言葉と聖霊です。私たちは、悪魔の声を聞いても即座にこの二つの武器によって悪魔を撃退できるのです。私たちは、悪魔の誘惑を即座に退けるために、神の言葉を常に心に蓄えておかなければなりません。

（しみず まさる 高槻聖愛キリスト集会）



司会の工藤新三氏と講師の清水勝氏、
中林憲一氏（左から）

2. 内村鑑三に学んだキリスト教

中林 憲一

中林氏は「内村鑑三に学んだキリスト教」と題し、内村の純福音把握をご自身の七十年の探究の末に啓示された真理として、内村の文章に依拠しつつ丁寧に解説された。マタイ伝における山上の垂訓を内村は天国の福音とし、山上の垂訓という表現に伴う三つの誤解を正し、それは万民への教訓ではなく、イエスに従う弟子達への天国での生の在り方（道）であるとされた。

次に、内村の「夏の午後 — 教へられし所の^{まこと}確実」をとりあげ、神は在る、其の神は愛である、愛の行為は犠牲であると、内村が生涯を賭して学んだことを紹介された。単純な真理を求め、光欲しさに泣く赤子としての内村が、「今や全世界は修羅の巷と化しつつある、然し乍ら神は愛である、万事悉く善に終わらざるを得ない」と喝破したとして、現代における内外の混乱・紛争を超える主にある希望を示唆された。

さらに若松英輔氏と井上洋治神父のやりとりを引き、内村が福音を母語（彼自身の骨肉となった言

葉）で語ったことや、内村が「良心」を鍵概念として「真理と真理応用の区別」を斎藤宗次郎に教え諭したことを引きつつ、制度・教義・儀式を媒介せずとも信仰はありうるとする内村の無教会キリスト教を評価する井上神父の言辞を紹介し、自らの信仰の師・武藤陽一氏の、「二極の絶対恩寵主義」（カトリック教会と無教会）を紹介された。

同じく武藤氏の「福音と文化を峻拒する」を引いて、宗教的完成度の高い浄土教の問題に触れ、信仰だけで救われるとする親鸞の教えは不徹底であるとして、ご自身が七十年悩み通した「わが信仰が我を救う」の誤りを、聖書協会共同訳の目玉となった「イエス・キリストの真実」と「イエス・キリストを信じる（我々の）信仰」の真逆さを強調し、父のみ旨に真実であったがゆえに十字架につかれたイエスの真実こそがキリスト信仰の心髄であり、十字架であり、十字架こそが信仰の根拠であると説かれた。

結びに、ご自分の「書簡 A さんへ」を朗読し、内村の言葉「カインとアベル」の意味する両者の心の違いが決定的に重要であると我々に示された。

（なかばやし けんいち テコア聖書集会）



小米桜 秀村弦一郎画

2025 年度内村鑑三記念キリスト教講演会（名古屋）

浪川幸彦（司会）

本年の名古屋講演会は、初春の聖日 3 月 1 日に名古屋市市政資料館で、41 名の参加者の下、2 名の講演者、杉山光太郎氏（名古屋聖書研究会）および西永頌氏（逆井聖書集会主宰、無教会新宿集会会員）を迎えて開催された。

いずれのご講演も下記にあるように感銘深いものであったが、それらに通底するのは内村鑑三の言う「実験」（real experience）の力であったと思う。

杉山氏は名フィルピオラ奏者の経験から、オーケストラとエクレシアとの深いつながりに、西永氏は矢内原忠雄の未発表原稿を（旧字体等そのまま）活字化された中で、エレミヤ、内村、矢内原の生涯の深いつながりに想到された。これはまさに内村の言う「実験」の働きである。

なお本年の名古屋講演会では、内村に加え、昨年 8 月帰天された岩田堯（たかし）氏を記念した。同氏は、1959 年合田初太郎氏が始められた豊橋聖書研究会に当初から参加され、早くから同会の事務一切を担って、閉会まで尽力された。

（なみかわ ゆきひこ 名古屋聖書研究会）

講演要旨

1. 「おもさにきく」——オーケストラの中にはたらく愛について

杉山 光太郎

オーケストラは弦管打楽器など、多様な楽器が集合して一つの音楽を作り出す。同じように、パウロは多様な人々が集まってキリストの体である一つのエクレシア（教会）が作り出されると言う。その中で「愛」こそが最も優れた道であると示す。エクレシアの一人一人に神の霊の働きが現れることによって全体の益がもたらされる。同じようにオーケストラでも一人一人が音楽への愛をもって全身全霊をそそいで演奏することによって全体の益である「よい演奏」がもたらされる。そこで大切なのは心も体も自由に生き、はたらくことである。パウロは「体の贖われること」つまり体の救いを霊の救いと同じように大切にしている。

わたしの学生時代の体育の教師、野口三千三先生はからだを通して真理を探究した。彼の「野口体操」は、からだのおもさを用いて地球の中心に問いかけ続けるものだった。その中で「脱力」ということを非常に大切にしていた。それは自らの鍛えた筋肉を用いて頑張ることではなく、地球の中心に自分のおもさをすべて任せて問いかけ続けるものであった。それは神様の愛に全てをまかせて問いかける（祈る）



野口三千三氏（東京藝術大学名誉教授）の著書

ことと非常に響き合う。まさに体を用いての祈りのようなものであったと感じている。

野口先生は「負けて、参って、任せて、待つ」という言葉が「信」と同じ意味を持つとおっしゃったが、心も体も自らの力で何事かをなそうと頑張るのではなく、神にすべてをまかせて、信じて（その日を）待つこと、あくまで謙虚に問い続けながら、祈り続けながら、その日を待つことが霊の救いにも体の救いにも大切だと思う。

（すぎやま こうたろう 名古屋聖書研究会）

2. 預言者の苦難

西永 頌

預言者は神の言葉を預かり人びとに伝えた人である。ここではエレミヤ、内村鑑三、矢内原忠雄を取り上げ神から与えられた苦難とその意味について考えてみたい。

エレミヤの時代、外敵の力が弱まりユダは平和で安定な暮らしが得られていた。人びとは、ヤハヴェへの信仰を捨て異教の神々に走った。神の座し給う神殿にこともあろうか異教の神々の祭壇を築き偶像を置き供え物を捧げて礼拝した。ヤハヴェの神は人格神でありわれわれの傍らにおられ人生の道しるべである律法を与え、生きよと言って下さる方である。いっぽう異教の神々には律法がない。人びとは木や石で神の像を造りその前に供え物を置き願い事をする。エレミヤは声をからしてイスラエルの民にヤハヴェなる神に帰れと語る。しかし民は聞かず反抗しエレミヤを迫害する。エレミヤは最後バビロニアに反逆するユダの人びとに連れられエジプトに行きそこで生涯を閉じた。

内村鑑三を襲った最初の悲劇は結婚の破綻である。内村は24歳の時浅田タケという女性と結婚した。タケは近代的な女性であり内村家には合わなか

った。ある問題が起こりタケは内村家を出て実家に戻った。内村は女が一度家を出たら二度と戻れないとタケにいったがタケは聞かなかった。内村にとって神の栄光を現わすべき結婚が破局を迎えたことの衝撃は計り知れないものとなり、内村は職を捨て自費で逃げるようにして渡米した。内村の心にのしかかった罪の意識は耐えがたいものであったが、アマースト大学シーリー総長の言葉でイエスの十字架による罪の贖いを自分のこととして知ることにより罪の赦しを実感した。それによって新しい内村が誕生した。その後、第一高等中学不敬事件、妻かかずの死、生活の困窮など次々と苦難が内村を襲うが内村は神の手を離さなかった。

矢内原忠雄は東京帝大卒業後、四国新居浜の住友別子鉱業所に勤務し24歳で結婚する。26才の時東京帝大の助教授に招かれ、ヨーロッパへの留学を命じられる。その留学期間が終わるころ妻愛子は病に倒れ、矢内原は帰国後直ちに病院に行き妻愛子の看病を行った。しかし、その看病も空しく45日後に愛子は天に召された。この苦しい看病の日々とやがてかの国での再会の希望をつづった文書が残されている。矢内原家から今井館に寄贈された資料の中に矢内原忠雄「基督者の信仰」第二版序・附録（未出版）の手書き原稿が発見されたが、そこに詳しく述べられている。この原稿はワープロ化され冊子として今井館に所蔵されている。また、今井館ニュース62号（2025年7月31日発行）に今井館常務理事藤田豊氏によるこの原稿の解説記事が掲載されている。

この三者の苦難は神のご意図によるものである。神は理不尽な出来事を通してご自分の計画を完遂されるのである。預言者の苦難の軌跡に神のご計画が貫徹されているのをわれわれは見る。

（にしなが たたう 逆井聖書集会）



「基督者の信仰」第二版附録原稿
(NPO 法人今井館教友会所蔵) 第1ページ

内村鑑三がベルにおくった柏会写真

藤田 豊

第一高等学校長新渡戸稲造が開いた読書会メンバーが、内村鑑三のもとにやってきたのは1909年10月29日のことであった。この記録の根拠は『今井館ニュース』51号(2021)に鈴木範久氏が紹介された原資料『柏会 記録』によって確定された。柏会のメンバーについては新渡戸校長の紹介で内村のもとにやってきたわけであるから、一高の生徒及びその卒業生中心ということになる。東京帝国大学の法科2年生であ



った塚本虎二は、二回目からの参加であったと、「先生に蝮の卵と言はれた“柏会”」（『内村鑑三全集』月報16、1933）で述べている。現在、柏会の代表的な人物として知られる矢内原忠雄も、1911年6月に、柏木の今井館で「スチープン・ジラードの話」を聞いた後、時間をおいて柏会に参加したのである。このように実際の構成メンバーについては増減があり、全員の特定はできていない。

メンバーに関する有力な資料は、内村とともに撮られた記念写真である。塚本も前掲の文章でこの写真とともに会員の紹介をしている。

塚本は1910年秋の写真とし、1933年執筆当時の職業とあわせ、前列左から、笠間杲雄（ポルトガル公使）、石川鉄雄（満鉄調査部）、前田多門（東京市助役、東京新聞論説委員）、内村鑑三、岩永裕吉（新聞連合社、*塚本は祐吉）三辺金蔵（慶応

大学経済学部博士）、武富敏彦（米国大使館参事官、*塚本は時敏。時敏、1856-1938、は敏彦の父）。

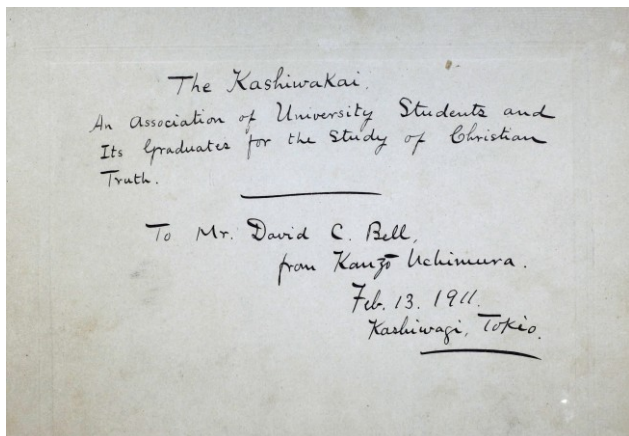
中央左から、川西実三（内務省社会局）、澤田廉三（パリ大使館参事）、森戸辰男（東京帝国大学助教授、森戸事件で辞職後大原社会問題研究所）、三谷隆正（第一高等学校教授）、鶴見祐輔（衆議院議員、『母』の著者）、藤井武（『旧約と新約』主筆）、椎津盛一（東京控訴院部長）。

後列左から、樋口実（三菱）、金井清（満鉄）、黒崎幸吉（『永遠の生命』主筆）、塚本虎二（『聖書知識』主筆）、膳桂之助（日本工業倶楽部）、一人飛んで、高木八尺（帝大教授）、黒木三次（貴族院議員）と紹介している。

今回紹介するベルに送った写真には、今まで紹介されてきた写真とは異なり、欠席者3名の写真が付加されている。この写真により欠席者の写真

とあわせて、1910年代初頭の柏会メンバーが特定できるのではないか。なお、写真撮影の時期は『三谷隆正全集』月報1では、明治43年(1910)12月。『無教会史』I(新教出版社1991)では、明治44年秋(1911)となっている。

柏会集合写真の裏面にはベルに宛てて、



The Kashiwakai
An association of University Students and
Its Graduates for the study of Christian
Truth.

To Mr. David C. Bell
From Kanzo Uchimura
Feb. 13, 1911
Kashiwagi Tokio

という直筆の文書が書き添えてある(写真)。柏会はキリスト教真理の研究のための大学生とその卒業生の団体であるとベルに伝えたのである。Christian Truth という一文は、柏会の解散にいたる原因と考え合わせると興味深い。

塚本が「一人飛んで」と省略した人物と、新たに加わった欠席者3名の特定を試みたところ、欠席者は左から田島道治(銀行家、戦後、宮内庁長官)、岩切重雄(衆議院議員)は解ったが残り2名は不明であった。人物を特定するために、柏会メンバーの書いた回想を読んでいると、『アメリカ精神を求めて——高木八尺の生涯』(東京大学出版会1985)の第一章「自らを語る」には、柏会や内村鑑三に関する回想が多くあり参考になった。文中には「当時の写真は珍藏しております」という文章があったが、残念ながら本文中には写真の説明はなかった。さらに高木の資料を探してみると、*American Studies in Japan Oral History Series* Vol.6-1(東京大学アメリカ研究資料センター1979)に「高木八尺先生に聞く」が見つかり、その中にベルに宛てた写真と全く同じものが掲載されていた。ありがたいことにこの写真には全員の名前が記されていた。この記述によって、欠席者のもう1名は内山直(経済学者)であることが解った。岩切重雄の追憶「一高時代の三谷君の思出」『三谷隆正全集』月報3にも、柏会の一員として内山の名がある。塚本が「一人飛んで」と省略した人物は、田島道治の弟田島達介(法学者、日本銀行名古屋支店員)である。塚本虎二がなぜ田島達介を省略したのかという疑問は残ったが、1910年代初頭、内村鑑三が柏会メンバーと考えていた人々が特定できたことになる。

ベル宛の内村鑑三直筆書簡は未発見だが、三木紀子様の手を経て、アメリカから今井館にもどってきた写真は、われわれに多くの貴重なことを教えてくれる。

(ふじた ゆたか 今井館教友会常任理事)

二周会の紹介

神谷 光子

二周会の始まりは、60年以上前になりますが、塚本虎二先生のお弟子さんであった白井きくが、若い女性を集めて持たれていた家庭集会（無教会キリスト教）にあります。結婚するとその集会を卒業することになっていました。卒業した人たちの中から集会に出たいという声があがったので、白井きくが、一年のうち五回ある第五日曜に集会をしましょうとのことで、まず始まったのが五周会でした。その時、子供たちと一緒に遊んでくださった方々に感謝しています。

何年かたって、五周会のメンバーだった小泉宏子が、西武線沿線の人たちで聖書の勉強会をしませんか、と声をかけて下さり、第二日曜に集まることから、二周会が始まりました。

途中から入られた方もあり、十人位になったこともあります。が、召天された方もいて今は大体四人で今井館の集会室をお借りして続けています。

今まで、白井きく著 『マルコ福音書』、『ルカ福音書』(上)(下)、『使徒行伝の読み方』、『ローマ人へ』、『ピリピ人への手紙を読む』等を学びました。

集会で学ぶ聖書の箇所は皆で相談し、お当番は廻りもちで、その日の集会を担当します。お当番以外の人でも輪読し、自分の感想を自由にのべあって学んでいます。

現在は白井きく著『ブルトマンと共に読むヨハネ福音書』(上)(中)(下)の(上)を学んでいます。

白井きくの注解は、難しい言葉を使っているわけではないのですが、時折り、頭の理解だけでは前に進めなくなってしまうことがあります。一人では読み解けないところを、皆で



1995年10月29日世田谷区代沢で開かれた90歳のお祝いの五周会で聖書講義をする白井きく

意見を出し合っているうちに、ふと「こういう事だったのか」と、真意に近づけたと思える時が訪れます。おそらく聖霊の導きを得て。

白井きくが全生涯をもって伝えてくださったキリストの福音の世界が、この頃見えてきた気がします。

関心のある方は、どうぞいらしてください。

日時	毎月第三金曜日	1時から3時
会場	今井館会議室	
テキスト	白井きく著 『ブルトマンと共に読むヨハネ福音書』(上)を使用	
進め方	交代で当番(リーダー役)を決め、会の進行を行っています。	
連絡先	神谷 光子 Tel 04-2942-5382 (かみや みつこ 二周会)	

学校・学寮だより

愛農学園

「めぐみのつゆ、富士山頂にくんだり、したたりて、そのふもとをうるおし・・・白頭山（朝鮮）をあらい、クンルン（中国）をひたし、テンシャン、ヒマラヤのふもと（ブータン）に水注ぎ、・・・サハラ沙漠は喜びて、サフランの花のごとくに咲きぬ。」（内村鑑三『初夢』）内村鑑三に降った福音のつゆは、金教臣をはじめ韓国の人々に受け継がれ、プルムの洪淳明さんの働きによって中国のクリスチャンで農業に関わる人たちの「神農会」をひたし、日本の愛農会と韓国の正農会とともにクリスマス礼拝を持ちました。初夢は朝鮮から中国そしてヒマラヤへ恩恵が溢れていきます。

12月24日から村上校長は生徒一人と共にブータンにいきました。そしてヒマラヤの地にめぐみのつゆを注ぐために働きたいとのビジョンが与えられました。クラークは札幌農学校の創立にあたって晩年の一年を伝道に注ぎ、内村鑑三に信仰が与えられました。仏教国ゆえにキリスト教の伝道が認められていないブータンに、農学校を設立することを通して、福音の真理を伝えることができると祈るばかりであります。



ギターを奏でる卒業発表

2月27日、愛農学園60期生の卒業発表があり、感慨深くきかせていただきました。一人ひとりの心溢れる愛の思いと叫び、涙と祈り、語りと歌は心に響きました。特に人間関係の苦しみの経験の中から感じた愛を語っていたことは何よりの喜びと感謝です。弱さやおそれの中にある自分が、愛に包まれ、愛に支えられ

ながら、その困難を乗り越え、その傷を癒し、さらに生きる勇気と励ましを与えられたことを歌っていました。（校長 村上 守行）

愛真高校



卒業式合唱「ハレルヤ」

1月23日には「原発に関する特別授業」を実施しました。講師としてお招きした会津放射能情報センター代表の片岡輝美さんは、「満州」で敗戦を迎えたお母様の「緊急時、国は国民を守らない」という言葉が、避難に後ろめたさを感じていたご自身の背中を押したと語られました。続く2月11日には「日本の戦争責任を考える特別授業」を行い、精神科医であり劇作家でもある胡桃沢伸さんを講師に迎えました。胡桃沢さんは、村長として村民を「満州」に送り出した祖父の責任と向き合いながら、「開拓」の名のもとに中国を侵略した加害の歴史について真摯に語られました。両授業に共通していたのは、非常時において国家は国民を守らないという事実です。弱い立場の人が切り捨てられ、自らの豊かさのみを追い求める風潮が強まる現代にあって、私たち一人ひとりがどこへ向かって歩むのか、深く問いかけられる機会となりました。

この度、本校の一年を追ったドキュメンタリー映画「聴く隣人のいるところ」が完成し、6月より全国で順次公開されることとなりました。本作は2024年度を舞台としていますが、今年度も生徒たちは「聴く隣

人」に支えられながら、夕会や感話会を通して自らの内面を言葉にしてきました。真剣に耳を傾けてくれる他者の存在があるからこそ、生徒たちは内に抱えていた思いを覆っていたものがはがされるように、また自らを縛っていたものから解放されるように、本来の自分を表していきます。このような歩みこそが、本校教育の大切な実りであると考えています。

(校長 栗栖 達郎)

独立学園



さよなら音楽会 3月12日

今年の冬は1月中旬までは余り雪がなく、4メートルを超した昨年を思いつつ暖冬の冬と思いきや、1月後半から毎日毎日降り続け、積雪2メートルを超える冬となりました。また今年の冬は1月中旬までは余り雪がなく、4メートルを超した昨年を思いつつ暖冬の冬と思いきや、1月後半から毎日毎日降り続け、積雪2メートルを超える冬となりました。また、水源地の水が枯渇するなどのことがあり、1週間以上水不足に悩まされた冬でもありました。そんな冬を、生徒達は朝に夕に除雪作業をし給水車からの水の運搬をしつつ乗り切ることが出来ました。そんな中、本校理事長石原潔氏が12月20日に急逝し、23日に告別式が行われました。本校の卒業生で、在任中何度も岐阜県から本校に足を運ばれたこともあり、生徒教職員にとって悲しみの時となりました。

様々なことがありながらも、本校で3年間学んだ76期生15人が3月13日の卒業式をもって巣立っていき

ました。15人という少人数のクラスではありましたが、卒業時に述べられた卒業所感においては、それぞれが「苦しかった」「悲しかった」「孤独だった」などなど歩んできた足跡を自らの言葉で語ってくれました。一人一人の言葉はまさに存在から語られる重い重い言葉で、3年間ここでどう生きたのかの総決算のような言葉でした。独立学園の卒業は創設以来 commencement (始まり) の英語を用いています。15人の卒業生がしっかりと3年間の歩みを自らの言葉で締めくくったこと自体が次なる始まりになっている、そんな思いを抱かされました。式の最後に全員でハレルヤコーラスを歌い全てを神に感謝しました。式後の会食に於いて、卒業生の保護者が全員でボンヘッファーの「よき力に守られて」を歌って下さった。感謝を込めて歌って下さった。生徒・教職員・保護者で作る学校とはこういうものなのだろうかという思いにさせられた時でした。4月には79期生25人を迎えての新しい始まりがまた始まります。

(校長 後藤 正寛)

登戸学寮

卒寮式のあと入寮式の前、梅咲き、桜ほころびそよぐ風に春を感じるこの頃、別れと出会いの季節です。卒寮式ではスライドショーにより思い出が音楽と語りと共に懐かしさを引き連れて流れていきました。笑いと涙を交えた歌唱、演奏と饞のトークそして4年生5人の答辞へと別れの時は進んでいきました。無事に学業、部活等を終え、社会人として世に送り出すことができますこと深く安堵しております。国際情勢は不測の事態を招きかねない厳しい時代が到来しています。そ



闇に輝くクリスマスの星々

のようななか「わたしの国はこの世に基づくものではない」(ヨハネ 18:38)と「天の父の子」として信の従順を貫いた方は人類に「新しい被造物」(第2コリント 5:17)の「好機」をもたらしました。不安と闇が濃くなるなか、この人類の道しるべの輝きはますます強まります。そのようななかで新寮生7人を迎えます。新しい挑戦に胸膨らませている若者たちを加え学寮は37人により漕ぎ出します。エレミヤは若き時の苦難や蹉跎が憐みの導きの過程であると励まします。

「ひと若き時に軛を負ふは善し、主これを負はせ給ふなれば独り座して黙すべし。口を塵につけよ、あるいは望あらん、おのれを撃つ者に頬を向け、満ちたれるまでに恥づかしめを受けよ、そは主は永久に棄つることを為し給はざるべければなり、彼は艱難を与へ給ふと雖もその慈悲おほいなればまた憐みを加へ給ふなり、心より世の人を悩まし且つ苦しめ給ふに非ざるなり」(エレミヤ哀歌 3:27)。希望のうちに真善美を仰ぎつつ一つの共同体として羅針盤正しく希望の地をめざし共に歩んでまいります。(寮長 千葉 恵)

春風学寮

12月20日土曜日にクリスマス会を開催した。このクリスマス会は、実に素晴らしいものだったので、それについて報告したい。

素晴らしかった理由の一つ目は、独立学園出身の教会オルガニスト土屋真穂さんが全く新しい形のクリスマス礼拝を行ってくれたことだ。この礼拝では、土屋さんが様々な聖歌や讃美歌を聖書講話風に解説し、その後でそれらの曲を歌えるようにと合唱指導を行った。当然参加者全員懸命に練習しなければならない。しかしこの練習のおかげで、歌詞の言葉が参加者の心にしみこんでいく。歌ううちになるほどこういうことかという気づきも出てくる。そして最後にはそれらの曲をみんなで合唱した。歌詞が心にしみこんだ上でなされる合唱は、ただの賛美を超えて祈りとなった。こうして参加者は全員で自ら礼拝を作り、賛美を捧げるといった実感を味わった。そして終わった時には、単なる知的な学びではない、全身全霊での感動に包まれた。これほど素晴らしい礼拝があるであろうか。

素晴らしかった二つ目の理由は、寮生たちが自作自演の感動的な演劇を上演したことだ。舞台は架空の王



参加型クリスマス礼拝を行ってくれた土屋真穂さん

国。王が宮廷見習い3人に告げる。「クリスマスの日までに余へのプレゼントを用意せよ。もっとも余を感動させた者には、ナイトの称号を授ける」。こうして宮廷見習いたちは何とか王を感動させるプレゼントを準備しようと七転八倒する。そしてそのうちの1人は気づかされる。「王の立場にたって、王の気持ちを理解しなければ王を感動させることはできぬ」と。「リヤ王」さながらの迫力で展開し、最後にはクリスマスにふさわしい大団円で幕を閉じた。客席からは割れんばかりの拍手が上がり、歓声が。(この演劇は、春風学寮のホームページで見られるのでぜひご覧ください)。

しかし何よりも素晴らしかったのは、このクリスマス会を開催するために寮生たちが毎晩深夜過ぎまで、準備とリハーサルを行ってくれたことだ。年末の忙しい時期にここまで頑張ってくれるとは。やはりこれもイエス様の働きであろう。

(寮長 小舘 美彦)



寮生自作自演の演劇
「余を最も感動させよ」

「第40回 内村鑑三研究セミナー」ご案内

日時 2026年6月13日(土) 14時～17時
会場 立教大学池袋キャンパス12号館 地下1階 第1・第2会議室
開催方法 対面とズームのハイブリッド方式
発表 趙凡熙 北海道大学文学院修士課程修了
内村鑑三の霊性の構造 — 「靈魂」、「霊」、「靈性」
山口真穂 早稲田大学文学研究科修士課程修了
内村鑑三門下の視聴障害学生の点字印刷事業 — 好本督・秋元梅吉を中心に
司会 渡部和隆 『内村鑑三研究』編集委員・NCC 宗教研究所研究員
参加費 1,000円(資料・通信費として)
申込方法 対面参加の方は申し込み不要です。会場に直接おいでください。
ズーム方式で参加の方は6月10日までに、氏名・電話番号・メールアドレスを明記の上、
下記連絡先までお申し込みください。折り返し当日ログインするURLと参加費振込口座情報をお送り
します。
連絡先: 渡部和隆 Eメール watanabekazutaka19871210@gmail.com
主催 『内村鑑三研究』編集委員会
問合せ 千葉 眞(『内村鑑三研究』編集委員) chibas@icu.ac.jp

各地からの報告

■東京

○内村鑑三記念キリスト教講演会 東京

日時 2026年3月22日
場所 今井館聖書講堂
講師 ゾンターク・ミラ 「内村鑑三研究は(今)何の
ために役立つか」
萩野谷興 「一キリスト者弁護士の歩み」

■中京

○内村鑑三記念キリスト教講演会 名古屋

日時 2026年3月1日
場所 名古屋市市政資料館
講師 杉山光太郎 「おもさにきく— オーケストラ
の中にはたらく愛について」
西永頌 「預言者の苦難」

■近畿

○236回関西合同聖書集会 司会 内坂晃

日時 2026年2月11日(水・休)
講師 川北雅夫 「本田哲郎神父のキリスト教」
津崎哲雄 使徒言行録第1回
午後 昼食感話懇談会

○内村鑑三記念キリスト教講演会 大阪

日時 2026年3月20日
場所 大阪クリスチャンセンター
司会 工藤新三
講師 清水勝 「主に従う私の道」
中林憲一 「内村鑑三に学んだキリスト教」

○237回関西合同聖書集会 司会 津崎哲雄

日時 2026年4月29日(水・休)
講師 田中晶善氏

「戦後教育改革に関わったキリスト者たち」
大川四郎 使徒言行録第2回

午後 昼食感話懇談会

■九州

○福岡聖書研究会・特別集会 (Zoom 同時配信)

- ① 3月15日(日)に澤正幸氏(前福岡城南教会
牧師)を迎えて、「玄界灘に立つ十字架」と題し
て日韓の架け橋になることを希望された兄上で
ある澤正彦先生の歩みを学びました。
- ② 3月29日(日)に寺園喜基氏(前西南学院大
学理事長)を迎えて「キリスト義認・信仰義認」
と題してパウロによる福音の中心を、K.バルトに
よる道案内を通して伺いました。

○別府聖書研究会・クリスマス集会

12月21日(日)梅木龍男氏が「ヨハネによる福
音書で学んだこと」、中村陽一氏が「神のことば」
と題して語られました。感話会でこの一年の感謝
が参加者13名から話されました。

■沖縄

○那覇聖書研究会

4月5日(日)イースター礼拝
第1部は礼拝で、金城孝次兄が復活信仰と復活告白
について聖書講話。
第2部は賛美礼拝で、各自のリクエスト讃美歌15
曲の独唱、フルート独奏、ハーモニカ独奏。その後
昼食を共に。復活したイエス様が焼き魚を食べたル
カ伝の記事もあり、友寄が海で釣った魚の唐揚げを
全員にプレゼント。

●キリスト教独立伝道会

○総会

2026年4月29日(水・祝) 13:30~14:30

Zoomによるオンライン開催

○総会後の公開講演会

2026年4月29日(水・祝) 14:45~16:15

講師 多田義国

テーマ 「キリスト教独立伝道会の伝道精神」

定期集会・地域別特別集会等案内

●キリスト教独立伝道会

○第3回 みんなのバイブルキャンプ

2026年8月21日(金)~23日(日) 2泊3日

会場 東京YMCA 山中湖センター

(山梨県南都留郡山中湖村平野419)

テーマ 未定

講師 香西信、小館美彦、他未定

申込先 小館知子

Eメール kodatetomoko@gmail.com

●山形

○山形聖書集会 代表 白崎良二

聖日集会是原則毎月第2・第4日曜、10~12時

夏期・冬期(8月・1~3月)は休会

会場:遊学館、山形テルサ、文翔館

聖書講話:会員順番に担当

○米沢聖書集会

日時:毎月奇数日曜日、10時~12時半

場所:会員の個人宅(米沢市内)

聖書講義:助川暢(基督教独立学園高等学校元校長)

連絡先:富樫徹

●茨城

○水戸無教会聖書集会

月例集会 10:30~12:00

第2日曜(預言書を学ぶ) 安昌美

第4日曜(マルコによる福音書) 萩野谷 興

8月は夏休みで休会

会場:南町コミュニティホール

(バス停「南町2丁目」下車 徒歩3分)

参加費 300円

連絡先:水戸無教会聖書集会 星野光利 029-247-1928

●千葉

○千葉聖書集会

① 毎月第3日曜日は午前10時~12時

千葉市生涯学習センターで主日礼拝

新約聖書を学ぶ

② 毎月第1日曜日 午後1時~3時半

会員の私宅で旧約聖書を読んでいる

連絡先:広瀬敏行

○逆井(さかさい)聖書集会

毎月第2土曜日 午前10:15~11:45

その後全員参加の談話会 12:30頃まで

会場:松戸友の会友の家(当面耐震改築工事のためZoom集会となります)。

また、本年7月19日(日)と来年3月13日(土)は今井館聖書講堂にて集会を開催しますので、どなたでもご参加下さい。

隔月ごとにエレミヤ書、ヨハネ福音書を学んでいます。

連絡先:西永 頌

tatau-n@td6.so-net.ne.jp

●東京

○高円寺東集会

礼拝:第2と第4日曜日の11時から13時頃まで

「ガラテヤ書」(元高円寺東教会牧師小西芳之助)、または「黙示録」(石館守三)の講解説教録音テープを聞いて

礼拝、昼食を共にします。参加費500円

会場:今井館第1集会室(ズーム併用)

連絡先:小西忠雄

t-c-27.konishi@jcom.zaq.ne.jp

○無教会自由が丘集会

毎月第3日曜日の10時~12時、対面とオンラインのハイブリッド、メール配信にて開催しております。

2025年度は「創世記」を学んでいます。

場所:成城ホール会議室(成城学園前駅)、もしくは「多目的貸しスペース中根クラブ」(都立大学駅)

連絡先:西村敏樹 bpnix556@ybb.ne.jp

○『塚本虎二著作集』読書会

毎月第1水曜日10時半から

今井館第1集会室

『塚本虎二著作集』第7巻(聖書知識社)を輪読

5月は218講、以下1講ずつ

但し5月は第2水曜日の13日に行う

連絡先:山田光子

higashino2usagi@au.com

○二周会読書会

毎月第3金曜日午後1時~3時

今井館第1集会室

白井さく『ブルトマンと共に読むヨハネ福音書』上、中、下を当番制で少しずつ学んでいます。現会員数4名。

5月15日は上巻202頁「裁き人」からの予定です。

連絡先 神谷光子

○駒込キリスト聖書集会 主宰:荒井克浩

聖日礼拝:毎週日曜聖日10時~12時

場所:今井館 第2・3集会室 ※遠隔の方Zoom参加可

聖書講話:「マタイによる福音書」の連続講解

(お願い)今井館の入り口はセキュリティがかかっているため9時30分以降に入口脇インターフォンで

「203」「呼び出し」を押してください。

連絡先：荒井 k_arai2005@ybb.ne.jp

HP：集会名で検索可

○国立（くにたち）聖書研究会

Zoomによる集会

毎月第4日曜日 10時半～12時

使徒行伝（新約）とイザヤ書（旧約）を交互に読んでいます。レポートは有志数名が交代で担当、毎回全員が感話、出席者は平均12名程度です。

連絡先：加納孝代 takayo@sepia.ocn.ne.jp

○無教会新宿集会

毎週日曜日午前10:00～11:45

原則として旧約聖書と新約聖書を交互に学んでいます。

会場：家庭クラブ会館（渋谷区代々木3-20-6）

JR新宿駅南口より徒歩7～8分

連絡先：島 創平 cbz04630@pop21.odn.ne.jp

●神奈川

○キリスト教横浜集会

主のお導きのもと、会場は関内の「技能文化会館」又は南太田の「フォーラム南太田」にて、午前10時から日曜礼拝を開催致しております。

安川文朗兄には月一度、Zoomによる聖書講話をお願い致しております。

20名弱の少人数でございますが、今後も集会を守って参ります。

須川真明

●長野

○インターネット教会「ネットエクレスシア信州」

当サイト「現代の預言」のページに「イラン攻撃と内村鑑三・戦争廃止論」をアップ中です。米・イスラエルによるイラン攻撃をどう受けとめ、また向き合ったら良いのか。日露開戦を前に内村が発した「戦争廃止論」を手がかりに考える試みです。PC又はスマホで「ネットエクレスシア信州」と入力して検索し、ホームページの「A最近の更新」から記事を選択すれば、閲覧可能です。

連絡先：坂巻隆男 sakamaki@jade.plala.or.jp

●山梨

○南アルプス聖書集会

山梨県南アルプス市小笠原255

代表：加茂悦爾

第2、第4日曜日 10時半～

旧約聖書：歴代誌

新約聖書：ルカによる福音書

●新潟

○新潟聖書研究会

日曜礼拝は対面（新潟市西区小針駅前の葡萄の家）とZoom併用のハイブリッドで、毎日曜日午前10時から12時に行っています。

第1日曜日はホセア書、第2・3・4日曜日はヨハネ黙示録を学んでいます。

熊本、静岡、石川県からの参加もあります。

参加希望の方は代表の二七教会までご連絡下さい。

27kyoukai@gmail.com（大西洋司）

●北陸

○金沢畝田聖書集会

毎月第1、第3日曜日 10:30～12:00

第1は使徒言行録を山下が、第3は崎村恒夫・広村暁が交代で担当し、聖書のメッセージを取り次ぎます。

会場：金沢勤労者プラザ 金沢市北安江3-2-20

連絡・問合せ先：山下士郎

Tel/Fax 0767-28-4678 glory@m3.spacelan.ne.jp

●静岡

○第61回 静岡県下無教会合同集会

10月18日10時～14時 講師 西澤 正文

会場：マークス・ザ・タワー 1905（清水）

○浜松聖書集会

第3日曜を除いた日曜日 10～12時

連絡先：武井陽一

会場：クリエート浜松 22号室など

<特別集会>

5月31日 講師 広村 暁

6月14日 講師 小田弘平

7月12日 講師 矢田部千佳子

○清水聖書集会

主日礼拝：毎日曜日10時～11時半

第2週 講話・小田弘平（元愛真高校教師）

第4週 講話・濱田 淳（調理師）

第1,3,5週 講話・西澤正文（集会代表）

第5週 感話会・会食

会場 マークス・ザ・タワー 1905

静岡市清水区辻1-2-1-1905

清水駅西口より徒歩3分

連絡先：西澤正文

●中京

○名古屋聖書研究会

毎日曜日10時～11時半 但し第5日曜日は休み

会場：名古屋市市政資料館

連絡先：三浦繁則

○名古屋聖書集会

毎月第2、第4日曜日10時～12時

会場 名古屋市千種区猫通2丁目8番地の15

ビレッヂ猫ヶ洞13号

連絡先 下澤悦夫（共同世話人）

●近畿

○第22回近畿地区無教会キリスト集会

日時：2026年5月9日(土)午後1時

～10日(日)午後1時

会場：関西セミナーハウス ＊駐車場有

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

主題：「キリストの十字架」

「このわたしには、わたしたちの主イエスキリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません」（ガラテヤ 6:14）

一人一人が「私にとっての十字架」を明確にされ、今日を生きる力、老いにも死にも打ち勝つ希望があたえられますように。

開会礼拝：小館美彦氏

主日礼拝：吉村孝雄氏 那須容平氏

申し込み：宮田咲子

Eメール：saiwai1950@yahoo.co.jp

○238 回関西合同聖書集会 司会 河野登

日時 2026年7月20日（月・休）

講師 松井謙介「高橋三郎召天十五周年・政池仁召天四十周年『道を備える』」

工藤新三・使徒言行録第3回

午後 昼食 感話懇談会

●中国

○岡山聖書集会

礼拝（第二、第四日曜 10時30分～12時）（マタイ福音書を学んでいます）

場所：岡山禁酒会館 2階集会室
（岡山市北区丸の内1-1-15）

希望があればオンラインでの集会参加も可能です。

代表者・連絡先 香西信

shinkozai@gmail.com

集会での聖書講話とキリスト教美術史の連載を掲載した『マラナ・タ』（月刊誌、現在138号）を発行しています。講読希望の方は私宛に連絡下さい。

●四国

○愛媛

日時：毎週日曜日 10:00～12:00

場所：松山市民会館 代表者：小笠原 明

○高知

日時：毎週日曜日 10:10～11:30

場所：高知県婦人会館 代表者：片岡典子

○徳島

① 主日礼拝

日時：毎週日曜日 10:30～12:30

場所：徳島聖書キリスト集会場 代表：吉村孝雄

参加者：約60名（集会場に10名、県内外のオンライン〔スカイプ〕参加者約50名）

② 夕拝（スカイプによるオンライン集会）

日時：毎月第1、第3火曜日 19:30～21:00

参加者：12～15名

③ 天寶堂集会

日時：毎月第3金曜日 20時～21時半

場所：天寶堂（はり治療院）徳島市応神町

責任者：網野悦子

参加者：10数名（会場参加とオンライン参加）

④ 海陽集会（オンライン）

日時：毎月第2火曜日 10時～12時

場所：讚美堂（数度宅鍼灸治療院）海部郡海陽町

責任者：数度勝茂（すどうかつしげ）

参加者：10数名

⑤ 北島集会（毎月2回）

日時：第2月曜日 13時～14時半（録音による学び）

第4火曜日 13時～14時半（オンライン）

参加者：8～10名（オンラインのみ）

場所：戸川宅 板野郡北島町

責任者：戸川恭子

●九州

○福岡聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12時

会場：アクロス福岡（福岡市中央区天神1-1）

ほか（約15名）、Zoom同時配信（約15名）

連絡先：秀村弦一郎

○別府聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12時

会場：北的ヶ浜公民館（別府市北的ヶ浜町3-35）

連絡先：中村陽一

○福岡聖書研究会・特別集会（Zoom同時配信）

① 5月17日（日）香西信氏（岡山聖書集会）を迎えての集会。演題未定。会場：アクロス福岡

② 8月23日（日）10～14時。島しづ子先生（沖縄うぶさと伝道所）を迎えての集会。会場未定

8月19～25日に戦争準備が進む日本の最前線・沖縄からの報告としての写真・絵画展を開催、22日（土）には島先生と沖縄の写真家による講演会も予定

③ 9月20日（日）矢田部千佳子氏を迎えての集会。演題未定。（以上の連絡先は秀村）

○那覇聖書研究会

毎月第1と第3日曜日 10:15～13:00に集会

5月17日 聖書講話 武井陽一（浜松集会）

会場：那覇市安謝の環路

○内村鑑三に学ぶ集い

日時：5月2日（土）10～12時

場所：うるま市栄野比公民館

内容：DVD「内村鑑三のことば」を見る

上記2つとも連絡先は次の通り

友寄隆静 tomoyose1947@gmail.com

事務局便り

加納 孝代

特定非営利活動法人（NPO）である今井館教友会は、基本的には維持会員による会費と、折々にいただく寄付金により運営されています。ご寄付は維持会員からいただくものもあれば、会員ではない方々から頂戴するものもあります。会費も寄付もほんとうにありがたく、事務局ではいつも心よりの感謝をもって受け止め、領収書の葉書を作成し、お礼の言葉を添えてお送りしてきました。葉書に使う写真の選定もとても楽しいものでした。

しかし近年プライバシー保護への配慮を求める声が高まる中、私たちも次のような対応をせざるを得なくなりました。以下きわめて事務的なご連絡になりますが、お許してください。

すなわち2026年3月31日をもって、今井館教友会では個人情報保護の観点から、葉書による領収書発行を廃止させていただきます。今後は、ゆうちょ銀行にて払込みをなさった際に発行される「振替払込請求書兼受領証」、又は「ご利用明細票」をもって領収書に代えさせていただきます。また例年7月にお届けしていた「芳名録」の発送も廃止します。

なおATMご利用の場合、払込取扱票は読取後ATM内に回収され、返却されませんが、「ご利用明細票」が発行されます。この「ご利用明細票」は再発行が出来ませんので、大切に保管をお願いいたします。ゆうちょ銀行店舗または郵便局窓口でお支払の場合は、適格請求書となる「振替払込請求書兼受領証」を受け取ることができますが、特定非営利活動法人今井館教友会は適格請求書発行事業者ではありません。

以上のように、今井館を支えるために維持会員になって下さる方々、ご寄付やご寄贈を下さる方々に対して、一面できわめて事務的な対応になることをお詫び申し上げます。それを補うものとして、たとえばこの『今井館ニュース』が、今井館と支援者・理解者・協力者の皆様とを結ぶ役割を、いっそう幅広く担ってゆければ、とも願います。

映画『聴く隣人のいるところ』が早川嗣（ゆずる）監督・撮影・編集のもと、完成しました。これは『今井館ニュース』誌上に毎号報告を寄せてくださっている「愛真高校」（キリスト教愛真高等学校）の日常を一年にわたって撮影したドキュメンタリー映画です。島根県の山の中、そして海にも近いところ、全校生徒が寮で暮らす小さな高等学校、上級生を見ながら育ってきた学年が今度は自分たちが上級生となって、より深くものを考えるようになってゆく……、その一年の時間を愛真高校の卒業生でもある早川嗣さんが記録し続けます。

東京ではポレポレ東中野で2026年6月より公開予定です。全国各地でも機会があればご覧になってください。キリスト教愛真高等学校は高橋三郎先生の呼びかけにより設立、1988年に開校しました。

（かのう たかよ 今井館教友会理事長）

維持会員募集のお知らせ

NPO 法人今井館教友会では会の趣旨にご賛同の方の入会を随時受け付けております。今井館教友会は、維持会員の会費と寄付金によって運営されております。内村鑑三および彼に連なる人々の遺したものを通じ世のために役立つ事を願いつつ鋭意努力を重ねています。2021年今井館は文京区本駒込へ移転し、財政的にはより安定化しましたが、なおも皆さまのご支援を必要としており、経済的・精神的なお支えを願うものです。この『今井館ニュース』は会員でない方にもお送りしておりますが、ご覧になって本会の活動にご賛同の方にはぜひ維持会員にお加わり頂きたいと思っております。

もしも、『今井館ニュース』をご不要なようでしたら、お手数ですがお知らせください。

■会員の特典

- 今井館資料館の図書・雑誌の貸出サービスをご利用いただけます。
 - 宅配便業者との提携による「メール便」利用しています（ただし送料は利用者負担でお願いします）。
 - 蔵書の検索につきましては今井館教友会のホームページの「図書検索」をご利用ください。
 - 雑誌・図書の一部をコピーしてお送りするサービスにも応じております。
 - 詳細は事務局にお問い合わせください。
- 『今井館ニュース』（年3回発行）の受領。

■会費

次の2通りを準備しています。

- 会員のゆうちょ銀行口座より毎月27日に自動的に振り込んでいただく方法。

X会員	1,500円	(月額)	(年額1万8千円)
Y会員	2,000円	(月額)	(年額2万4千円)
Z会員	3,000円	(月額)	(年額3万6千円)
T会員	任意	(月額)	

※ゆうちょ銀行の口座をお持ちでない方は口座をお作り頂く必要があります。事務局より必要書類一式をお送りしますので、ご連絡をお願いいたします。

- ゆうちょ銀行の振込による年1回納入
A会員 年会費 1万円、B会員 年会費 5千円、S会員 年会費 任意

■お申し込み

事務局にご連絡をお願いいたします。申込書（ハガキ）をお送りしますのでご記入の上ご返送ください。

● 前号の訂正：

- 5頁左側下から10行目 【誤】1970年 ⇒ 【正】1974年
10頁写真の日付 【誤】1919年8月 ⇒ 【正】2019年9月
10頁右側下から3行目 【誤】『神曲』には ⇒ 【正】『神曲』は

- 編集部からのお願い。頁の余白にお花のカットを挿入しています。掲載しても良い自作の絵をお持ちの方はどうぞ編集部までお送りください。画像はお花でなくても大歓迎ですが、カラーが好ましいです。

「今井館ニュース」第64号 2026年4月30日

(年3回発行 4月、7月、11月)

発行人：特定非営利活動法人今井館教友会

理事長 加納孝代、副理事長 川中子義勝

編集人：志知道子、玉井慎一、矢田部千佳子、山下明

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-11-15

Tel&Fax：03-6277-5669

メールアドレス 304kyoyu@imaikankyoyukai.or.jp

ホームページ <http://www.imaikankyoyukai.or.jp>

郵便振替口座 00170-2-83102

加入者名 特定非営利活動法人今井館教友会

編集後記

前号の発行から、世界では何と多くのことが起きていることでしょう。皆さま、いかがお過ごしでいらしたでしょうか。今、私たちはどうあるべきか、毎日問われ続けているような気が致します。しかし、今年も3都市において、私たち恒例の内村鑑三キリスト教講演会がつつがなく開催され、今号においてその報告ができたことは、喜びであり、大きな慰めです。内村は今の私たちと同じような時を、1890年代から、1903年に絶対的非戦論を唱えるに至るまで、迷いつつ、悩みつつ、過ごしていたと思います。心新たに内村の言葉に学び、主のみを仰いで生きる姿勢に倣いたいと考えます。決して恐れず、主の平和を祈って心を一つに致しましょう。(C.Y.)